

## 第 73 回大阪税関行政懇談会

日 時：令和 7 年 4 月 18 日（金）14:15～16:15

場 所：関西空港 CIQ 合同庁舎（大阪府泉南郡田尻町泉州空港中 1 番地）

説明者：田中 伸一 大阪税関 業務部長

石川 陽一 大阪税関 関西空港税関支署長

寺岡 和之 大阪税関 関西空港税関支署 次長

### 議事録

#### 【坂元座長】

ただ今から、第 73 回大阪税関行政懇談会を開催いたします。まず初めに本懇談会の開催にあたりまして、清水税関長からご挨拶をお願いいたします。

#### 【清水税関長】

本日は皆様お忙しいところお集りいただきまして誠にありがとうございます。また、平素から税関行政につきまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますことを改めて御礼申し上げます。

これから後ほどご説明いたしますが、今日は越境電子商取引（以下、「越境 EC」という。）の進展に伴いまして急増する輸入貨物についてどうしていくか、大阪税関におきましては、関西空港におけるシェアや貨物量が多いということで、その課題のフロントラインに立っております。これに関しましては、技術や機器を新しく取り入れ、また、貨物に係る事前情報の活用が重要であり、制度的な手当ても行っておりますが、最後は職員が頑張っているのが現状です。

今週ドバイで開催されている、国際航空運送協会（IATA）のワールドカーゴシンポジウムにおきましても、世界の航空貨物輸送量の約 2 割を占める越境 EC について、少なくとも 3 分の 1 を占めるまで成長すると示しておりますので、今後、貨物量が一定としても越境 EC の貨物量は現在の 1.5 倍まで増加するだろうと予想されています。

また、コロナ禍後の人的交流の再開に伴い、不正薬物や知的財産侵害物品の摘発が近年増えています。これは摘発率が上がったという短絡的なものではなく、国民の健康や企業活動への影響が懸念されるわけです。

本日我々からの説明の後、皆様からこのような件につきまして、ご助言やコメントをいただければ幸いでございます。よろしくお願ひいたします。

#### 【坂元座長】

清水税関長、ありがとうございました。

本日は、「越境 EC 拡大に伴い、急増する輸入申告貨物への対応」をテーマに、税関全体の取組みをはじめ、特に輸入申告貨物に係る輸入申告件数の増加が顕著な関西空港に焦点を当て、関西空港税関支署の取組みや対応状況についてご説明いただいて、意見交換を行いたいと思います。

まず、急増する輸入申告貨物に係る税関全体の取組みについて、大阪税関 田中業務部長に

ご説明をいただきます。その後、関西空港税関支署の概況、急増する輸入申告貨物に係る支署の取組みについて、関西空港税関支署 石川支署長、同支署寺岡次長よりご説明をいただきます。次に、場所を関西空港地方合同庁舎へと移動しまして、税関の執務状況をご見学いただきます。見学終了後、当会場に戻りまして、税関で摘発した不正薬物等社会悪物品の隠匿事例と知的財産侵害物品についてご説明いただきます。最後に、質疑応答、意見交換の時間を設けさせていただきます。

それでは、初めに田中業務部長の方から、よろしくお願ひします。

#### 【田中業務部長】

※ 資料 1に基づいて、急増する輸入申告貨物に係る税関全体の取組みについて説明。

1. 全国及び大阪税関の急増状況
2. 関西空港税関支署あて輸入申告への審査支援（管内・他関）
3. 制度改正による急増対策（輸入申告項目の追加、海上小口貨物の簡易通関手続の導入等）
4. 越境 EC に係る消費税課税の課題

#### 【坂元座長】

田中業務部長、ありがとうございました。続きまして、石川支署長、寺岡次長からご説明をお願いいたします。

#### 【石川関西空港税関支署長】

※ 資料 2に基づいて、関西空港税関支署の概況等について説明。

1. 関西空港税関支署の概況
2. 関西空港における貿易概況等
3. 密輸摘発事例

#### 【寺岡関西空港税関支署次長】

※ 資料（税関業務への支障及び利益保護の観点から非公開）に基づいて、関西空港税関支署における急増する輸入申告貨物への対応状況等について説明。

1. 検査の効率化・DX 化
2. AI を活用した通関審査の DX 化

#### 【坂元座長】

石川支署長、寺岡次長ありがとうございました。後ほど懇談会全体を通した意見交換の時間を設けさせていただきますが、その前にここまでのご説明に関して委員の方から、ご意見・ご質問等ございましたら、ご発言をお願いいたします。

山谷委員お願ひいたします。

#### 【山谷委員】

日頃、大阪税関様、関西空港税関支署様には大変お世話になりますてありがとうございます。今日は越境 EC 貨物の取扱量が急増しているというお話を頂戴しまして、本当にそのとおりだ

と思います。我々もいろいろ考えて対応していますが、越境 EC 要するに BtoC のインターネット取引が、構造的な変化を伴っていると考えております。日本国内のみならず世界でも、このようなディスインター・メディエーションという中間を省略した形で、海外の倉庫から発注者に対して直接送るという商流、或いはそれに伴って物流へと変化しているだらうと考えております。

構造的変化が起こっているにもかかわらず、我々の空港サイドとしては、飛行機から貨物を取り出して、そして保税倉庫に持ち込み、その中で今度は航空輸送のために取り付けられたタグごとに仕分けしています。貨物量が増えているのに仕分け作業は従来どおりの手作業になっており、もう少し平たく言うとダンボールの中に小口の貨物が詰め込まれ、それを手作業で仕分けをしていきます。何とか今まで対応できていたものの、もう限界に近いと思っております。昨年のクリスマスの時期には急増し、現場からの報告によれば手一杯になってしまったということなので、これが常時続くようであればパンクするのは目先の問題という事態になっております。

先ほど申し上げたように、構造的変化が起こっているのに従来の体制で対応しているところが一番大きな問題であると感じておりますが、従来のやり方に物流の方を合わせるのは難しいので、我々の方が新たな需要に対して、マッチさせていかなければならぬと考えています。

そうしますと、もしかすると新たな倉庫需要があるかもしれませんし、新たなシステム投資、或いは自動仕分け機器などの、オートマティックで科学的なものを採用するといった対応を至急考えないといけないと思います。それで、我々は大阪税関様、関西空港税関支署様とともに、知恵を絞りながら、構造的変化に対する対策を考えまいりたい、このように考える次第です。おそらくは、一例を申し上げると貨物に統一した規格での梱包を極力義務づけることで、効率的な取扱い、或いは適切な貨物検査が行えるようになると思っています。

今回の行政懇談会で、税関様から、課題に対する取組みについてご説明いただく中で、むしろ我々サイドの対応が遅れているかもしれないという思いもございます。本日を皮切りとして、特に検討を進めさせていただき、新しい取扱いスタイルをこの急増する大阪・関西から作っていきたいと思います。おそらくこの傾向は今関西空港で一番顕著ですが、そのうち日本の空港どこも間違いなくパンクしていくだろうと思いますので、先行してそのような取組みも考えて参りたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

#### 【石川関西空港税関支署長】

ご意見をいただきましてありがとうございます。関西空港税関支署としても、現在輸入の増加が続いております越境 EC 貨物の円滑な通関と適切な水際取締りを両立させるために、関西空港の貨物地区を管理運営されている関西エアポート様と協力して、効率的な貨物の取扱いに向けた取組みを進めていくことは大変重要であると考えています。これまでも関西エアポート様とは意見交換をさせていただいておりますが、今後はより緊密に連携させていただきまして、従来とは異なる新たな関西空港における効率的な貨物の取扱いに向けた検討などの取組みを進めていければと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

#### 【坂元座長】

ありがとうございます。何か他にございますか。それでは時間がまいりましたので、次に場所を移動させていただきまして、税関の執務状況を見学していきたいと思います。

※ 以下の内容で税関業務に関する見学会を実施。

1. 関西空港税関支署における急増する輸入申告貨物への対応状況の視察
2. 不正薬物等の社会悪物品隠匿事例及び知的財産侵害物品の説明

【坂元座長】

見学の方お疲れ様でした。それでは行政懇談会を再開させていただきます。本日の説明や見学を踏まえまして、委員の皆様方からご質問やご意見など自由にご発言いただきたいと思います。ではどなたからでも結構ですので、どうぞご発言ください。

【岡本委員】

今日は見学の方もありがとうございました。どのように作業が行われているかを実際に見ることができて大変勉強になりました。今日の課題の中で、越境 EC 貨物が増えてきて、どのように対応するかということが一つあるかと思います。輸入者符号を持たない不特定多数の人を輸入者とする越境 EC 貨物は他の一般の BtoB の貨物と分けて考えないと作業が追いつかないのではないかというのが今日拝見した感想でございます。ですので、越境 EC 貨物は、例えばりんくうタウンなどの別の場所に分けて、自動化した機械で見ないと作業が大変で、税関検査においても X 線のチェックなども AI のサポートがないと追いつかないのではないかという印象を受けました。何かその点検討されていることがもしあればご教示いただきたいと思います。

【田中業務部長】

先ほど、見学前に山谷委員の方からいろいろとご提案もいただきながら、石川関西空港税関支署長の方からも連携しながらやっていきたいという意見もありましたので、空港内の物流と税関検査を上手く結びつけられるような流れ、ハンドリングができればと考えております。以前から大阪税関業務部次長と寺岡関西空港税関支署次長とで関西エアポート様とお話しをさせていただいているところであります、これだけの輸入申告件数がございますので、今後とも連携を取りながら図って、スムーズな通関に努めてまいりたいと思います。

【立野委員】

先ほどは検査状況を見させていただき、ありがとうございました。知的財産侵害物品を見させていただきましたが、我々も国内で意匠権等の出願をしております。もし我々の知的財産が侵害されている商品が入ってきた場合に、どこに取り締まって欲しいと連絡すればよろしいでしょうか。

【田中業務部長】

関税法の中に輸入差止申立制度というのがございます。侵害品が海外から輸入されているという情報がありましたら、ぜひとも大阪税関業務部の方に相談していただければと思います。各税関同様の窓口がございますので、差止申立制度を活用していただければと考えてございます。

**【立野委員】**

それともう一つ、今回検査システムを見させていただきましたが、密輸を漏れなく防ぐのは難しいと思います。中身を上手く隠すような方法があれば、検査を通り抜けてしまう事態も生じると思うのですが、それに対して、技術の日進月歩を踏まえて開発されている機器などがあればご教示いただければと思います。

**【濱路監視部長】**

技術の日進月歩について一昔前から考えますと、例えばX線検査装置は、一方向から二方向からの照射になり、最近では、不正薬物等を飲み込んで体内に隠匿する事案においてCTを活用したX線検査画像が用いられるなど、技術の進歩に合わせて税関でも検査機器を導入・進化させながら対応しているところでございます。また、先ほど見ていただいた粉状の金の密輸入事案についても、今後さらに高性能な金属探知機を導入して対応していきたいと考えております。

**【岡本委員】**

最初にご説明いただいた中で国外事業者が国内の倉庫、プラットフォーマーの倉庫から出でいくときに消費税の無申告が生じているおそれがあるということでしたが、例えば1,000円の商品を100円で輸入してきて、日本国内で販売するとき1,000円で売っているようなイメージのことでしょうか。

**【田中業務部長】**

そのような手口もありますが、実際は1,000円のものを売ると100円消費税を取らないといけないため、事業者はそれを売って国庫に納めないといけない流れですが、海外の事業者であれば、税務署等に納税申告をしていないことが課題になっています。

**【岡本委員】**

これは非常に大きな問題で、もう少し網にかける方法はないのかなと思いました。ありがとうございます。

**【坂元座長】**

私の方から質問させていただきます。検査技術の高精度化について、どんどん進化しているイメージがあります。検査システムは、私が想像していた以上にすごい精度だと感じました。これから、やはり技術進化とともに検査技術というのはどんどん変化するでしょうし、量もこなさないといけない時代に入っていて、技術進化というのは大きく検査精度の高度化と量への対応という二つの方法があると思います。量への対応としては、仕分け技術や、仕分けしたものを自動検査していくなどがあるかもしれません、今後検査システムはどのように進化していくのか、そのあたりの展望が何かあればお聞かせいただけたらと思います。

**【田中業務部長】**

検査機器については、先ほど濱路の方から申しましたように、技術の進歩に合わせて導入・

進化させていくという流れにはなるかと思います。あともう一つは、空港内のハンドリングの中で税関検査を効率的に取り入れられたら一番良いと思っております。現在は、一旦通関業者の倉庫に入ったものを税関検査場に持っていくことが多いのですが、この物流の過程で検査すれば多くの貨物に対してX線検査等のスクリーニングができます。それであれば密輸を阻止できる件数も増える可能性がありますので、そのような点を関西エアポート様等と連携しながら対応できたらと考えているところでございます。

【濱路監視部長】

多くの申告件数がある中、すべてのものを検査するのはなかなか難しい問題がございます。先ほど岡本様から越境EC貨物については別の場所で作業するというご提案をいただきましたところですが、それ以外にも一般のBtoBの貨物もございます。そんな貨物に対しては、情報を活用した絞り込みというのを実施しております。効率的な検査ができるようにしているところでございます。

【坂元座長】

ありがとうございます。いろいろとたくさんの貴重なご意見いただきました。また、税関当局の方から丁寧なご説明もいただきました。時間になりましたので、これでまとめの方向に入りたいと思います。私の方から全体のまとめをさせていただきたいと思います。

関西空港は近年、空港機能の近代化・高度化が図られるよう、先行投資した旅客エリアに続いて、今後、貨物輸送エリアの改修投資が計画されており、2030年頃を目指して設備等の刷新がなされていくという情報を新聞等で確認しております。同時に関西空港税関支署も輸入申告貨物の取扱いの効率化や合理化、そして審査の強化のために、デジタル技術を駆使した技術開発のために新たな投資もなされていくということです。

今回の行政懇談会では、対象地域である国際貨物地区の一角にある地方合同庁舎の関西空港税関支署貨物検査部門の業務を見学させていただきました。大阪税関並びに関空税関支署における重点的な取り組みとして、今日議論・討議したように、急増する輸入申告貨物への対応策が積極的に展開をされております。本日はこのテーマで大阪税関のご説明、見学、意見交換を行いました。大阪税関による説明では、日本全体としてECサイトの利用増加による航空貨物の増加が顕著であって、2024年では2019年比4.2倍に増加するなど輸入申告許可件数が増加しており、大阪税関においても輸入申告許可件数が大きく増加し、昨年は全国の47%を占めたということです。これに対応して、関空税関支署検査場では検査システムが導入され、検査の自動化と効率化がなされ、同時にNACCSとの連携も進み、情報の共有から有効活用による検査の高精度化が図られるということが理解できました。特に中国発ECサイトの利用が拡大しており、越境ECの増加が著しく、それに対応すべく様々な施策が展開されており、例えば海上小口貨物については簡易通関手続の導入が予定されているという説明もございました。輸入申告貨物件数が増加する一方で、密輸などの不正が増加しており、重要課題と位置付けて取締りが強化されているということです。

関西空港税関支署では、不正な申請を検出できる通関検査のデジタル化や、AI活用も検討されて、今後進む成果に期待できると感じました。以上のように、輸入申告貨物が急増する中で、大阪税関及び関西空港税関支署におかれでは、輸入審査の効率化・合理化、不正輸入の検

出など、総合的な輸入貨物取扱機能の高度化に積極的に取り組まれていることが特に印象深く感じました。とりわけ AI をはじめとするデジタル技術の活用による高精度な管理技術の展開は注目すべきという点であると思っています。

企業側としましては、以上のような税関当局をよく認識し、こうした関空を取り巻く制度面、業務運営の大きな変化に注目して情報収集に努め、そして実務に活かすとともに税関業務の効率化や合理化やデジタル化に協力し、情報提供など適切に対応していくことが大切であると感じました。

本日の質疑におきまして、一つ目は越境 EC への対応ということで、不特定多数の輸入者の中から抽出して貨物検査を行う点について、貨物量の多さを考えると、相当効率化・自動化が求められるというご意見がありました。今後は関西エアポートとの連携も含めながら、こういった問題への対応を行っていきたいということです。

また、二つ目は海外から密輸入される知的財産侵害物品に気づいた場合には税関窓口に連絡してほしいということで、企業としてもきちんと対処しなければならないということです。

三つ目は検査をすり抜けるようなリスクへの対応はどうするかという問題に対しては、技術的には CT を活用した X 線検査など高度な検査技術の導入をさらに進めていきたいということです。さらにハンドリングの効率化や情報技術を有効活用した高度なシステム化を目指していきたいということです。以上のようなご意見をいただきました。

また、最初に山谷委員の方から、関西エアポートとして日頃から税関当局と連携をされている立場としてのお話がありましたが、やはり越境 EC が増えていることは構造的変化であるとの認識であり、倉庫機能や或いは自動仕分けなどで、どのように対処していくかについて、関西エアポートとして、税関当局と十分な連携をしながら、関西空港から、むしろ他の地域に先行する改良モデルを開発していきたいというお話をございました。

私のまとめは以上でございますが、本日の行政懇談会におきましては、説明と見学の機会をいただきまして、ご案内いただいた清水税関長を始め、大阪税関並びに関空支署の職員の皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に清水税関長の方からご挨拶をいただきます。

#### 【清水税関長】

本日は長い時間にわたりまして、出席またご意見を頂戴しまして誠にありがとうございました。本日皆様方からは、我々が抱えている課題に関しましては、オペレーション上の対応や、技術上の活用といった様々な意見をいただきましたので、これを踏まえて我々としても取り組んでいきたいと考えております。引き続きよろしくお願ひいたします。

以上